

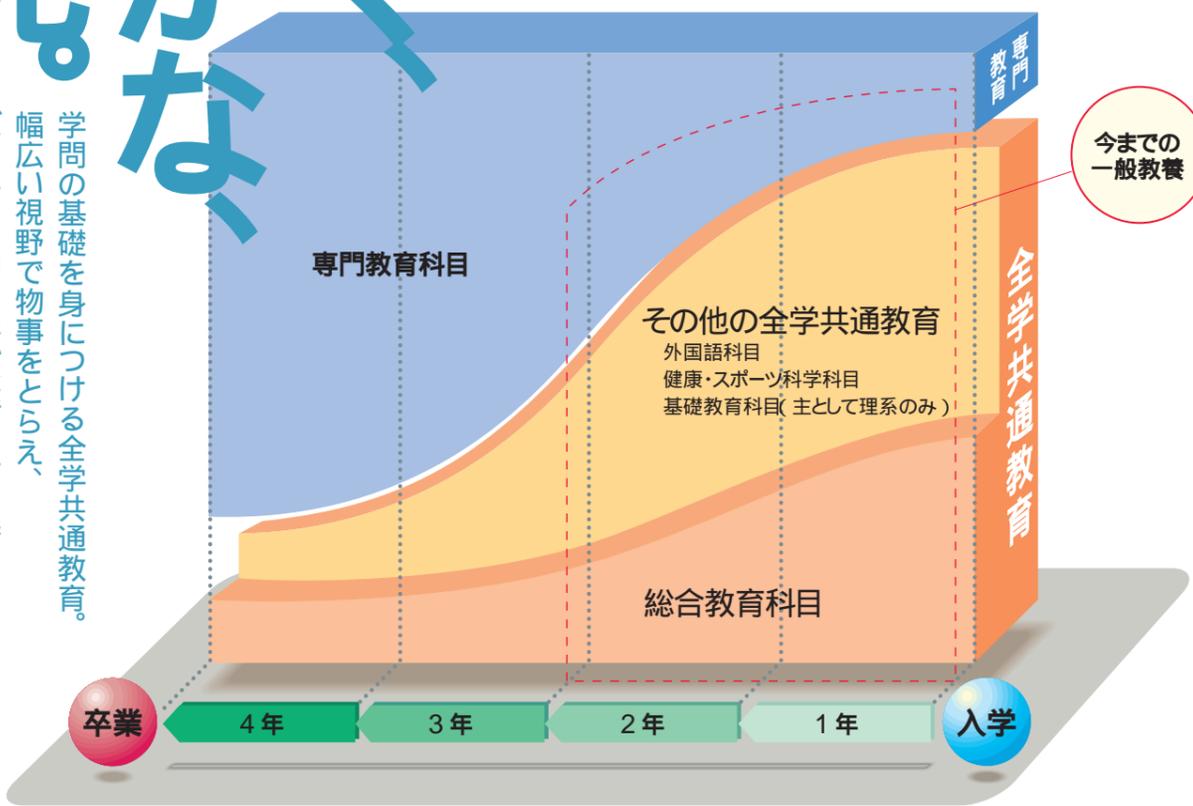
# 通学共教育全

Fundamental Education



# より広く より豊かな 自己発見。

学問の基礎を身につける全学共通教育。幅広い視野で物事をとらえ、バリエーション豊かな考え方を養えるよう、ゆとりをもってサポートするシステムです。



今までの一般教養

少人数制のゼミナール教育を中心に体系的に学べるカリキュラム編成

## 総合教育科目

**総合教育科目A**  
人間の共存や市民生活などに直接かかわる現代的・実質的な問題を様々な学問領域から多面的に取扱う科目です。大問における教育実践と本学教員・大学院生・学生による研究成果の蓄積に基づき、「人間と環境」「都市・大阪」「生命と人間の三つの主題のもとに提供されています。大阪市立大学のアイデンティティがよく発揮されている科目群です。

**総合教育科目B**  
人間にとって基本的であり一般的である様々な問題がどのように取り扱われてきたかが現在の到達点などのような状況にあるかなどを学ぶための科目です。毎年80近くの科目が編成され、それらは9つの主題「人間と知識思想」「現代社会と人間」「社会と人権」「歴史」「地域と文化」「文学と芸術」「現代の自然科学」「自然科学と人間」情報と人間」に分類されて提供されています。

## その他の全学共通教育

**基礎教育科目**  
数学・物理学・物質科学・化学・生物学・地球学および図形科学のタイトルのもとに分類された70以上の講義科目および実験科目からなり、主として理系系の学生に提供されています。これらの科目の中の実験科目は、最先端の設備を整えた基礎教育実験棟において、学生の自主性に重点を置きながら多数のスタッフに支えられて進められています。

## 外国語科目

「読み、聴き、話し、書く」を基本に総合的な語学教育を行います。提供科目は英語と新修外国語(ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・朝鮮語)に大別され、外国人講師による授業や視覚機器を利用したクラスも多数開かれています。英語では、新入生対象のクラスから会話・作文などに特化した上級クラスまで各段階に合わせた多様な科目が提供されています。新修外国語では新しく学ぶ外国語が実用的に使えるようになることを目指します。

## 健康・スポーツ科学科目

新しい時代に即した健康とスポーツに関する情報ならびに科学的な身体運動の理論と実践法を学び、かつ体験する科目です。生涯を通して健康で豊かな生活を送るために欠くことのできない内容を学ぶことができます。

## 広く基礎知識を学び、

## 多面的に考える力を養う総合教育。

### 君はどの生きるか

充実した人生を生きたい、自己実現をしたい、皆さんはそう思いませんか。これまでに築かれてきたもの、現在行なわれていることを学び考え、自らのものとするのが、今を生き、未来につながるものを作っていくために大切です。皆さんが大学時代にどのように時間を過ごすか、何を学ぶかはそれ以降の人生のあり方に大きな影響を与えることになるでしょう。

### 大学でどう学ぶか

大学の専門課程で修得する専門的な知識・技術により、職業人として生きていくことや社会と関わりていくことが可能になるのです。一方、専門知識を山頂にたとえるなら、裾野には専門科目を学ぶための基礎学力や広く教養と呼ばれるものがあります。教養は人間がいかに生きていくべきか、他の人々や社会といかに関わっていくべきか、などについての考え方を豊かにするものです。「この部分を身につけていくための手助けとなるように、大阪市立大学では、全学共通教育」と呼ぶ多彩な科目群を設けています。これらの中から必要な科目を選び、皆さんの人生に役立てて下さい。

## 授業への理解をさらに深める、設備の充実した教育研究施設。

### 基礎教育実験棟



「百聞は一見に如かず」教科書を読んでもピンと来ない事が、実験をする「なるほど」と瞬間にわかってしまいます。また、実験は意外な発見をさせてくれます。実験することにより、理科の面白さと、自然の素晴らしさがよく解ります。実験は自然との対話です。この実験棟では、主として理系基礎教育科目の実験を提供します。熱心な実験棟技術職員と教員とのチームワークで、幅広い実験テーマが企画されています。「これが1・2回生が使える施設?」と言わせる日本一の建物と実験装置が、あなたを待っています。文科系学生のたぬの実験も開講されていて大好評です。

### 全学共通教育棟

現在建設中の全学共通教育棟は、知の高度化・情報化に対応した全学共通教育が展開できるよう、マルチメディアを利用した最新の教育設備や、快適な教育環境を備えた施設として整備します。(平成15年4月より一部供用開始)  
具体的には、情報処理教室、外国語特別演習室、図形科学演習室等のほか、授業の形態に応じた適正規模の教室が設置されます。



水の研究を通して  
自然環境を  
見直してみませんか？



この科目は文科系の学生に実験を通して自然科学を身近なものに感じてもらおうとを目的に、11種類の実験により構成されています。私たちは「環境の中の水、おいしい水の話」という題で、市販のミネラルウォーター・水道水・蒸留水を分析し、味見の後、分析値から銘柄を当てる試みをしていきます。この授業が自然環境や生活を見直すきっかけになれば幸いです。

### 総合教育科目B 実験で知る 自然の世界

文系にはない  
「実験の楽しさ」を学べる  
授業なんです。



専門知識がなくても先生方のわかりやすい説明や具体例などがあつたので詰まることなく実験ができました。特に水をテーマにした実験では、地域によって味や成分にどんな違いがあるのか調べるなど面白い実験をしました。幼い頃の探究心を再び思い出させ、身近なものに興味を抱かせてくれる有意義な授業です。

西田 仁紀(経済学部・2回生)

自分なりの  
歴史との関わり方を  
見つけてください。



この授業の目的は二つです。一つは特定のテーマの講義を通じて、受講生諸君が自分なりの歴史の見方をつくりあげること。歴史の見方は一人一人の生き方にもつながります。もう一つは、大学生らしいレポートが作成できるようにすること。きちんとしたレポートを書く技術は、学生時代はもちろん社会に出ても役立つと思います。

井上 浩一(文学研究科・教員)

レポートを  
うまく書けなかった私も、  
今はバッチリ!



この授業は、「中世を生きたい」ということに焦点を当て、中世を詳しく知ることが目的でした。高校までの歴史の授業のように広く浅くではなく、狭いけれども深い歴史の知識が身に付きました。また講義だけでなく、学情実習があったり、ノートの取り方、レポートの書き方も教わりました。他の総合教育科目のレポートを作成するときにも役に立ちました。

加藤 紀子(法学部・3回生)

受講した学生しか  
味わえない達成感を  
キミもぜひ!



一般の授業は講義が中心であるから、学生は与えられた課題をこなすことで精一杯である。私はそんな中でも教員と学生や学生同士の間で双方向性のある授業を目指している。そのための一つがこの演習である。少人数で学部学生も異学年学生たちで行う対話型授業で、学生はテーマから自分で見つけ、調べ、議論し、最後は論文にまとめる。超ハードなテーマだが、トルに迫り着いた時の学生たちの顔はとて素晴らしいものはない。

### 総合教育科目B 人間と科学 (演習)

他学部の学生と  
意見を交換できるのが  
大きな魅力。



この授業はとにかく濃厚でした。7人という少人数、しかも医理、文、経済といったさまざまな学部出身者が集り、広げられる討論では、もの見方の違いに毎回新鮮な発見がありました。自分のテーマを見つけて論文を書くのには苦労しましたが、ゼミ合宿でさらに討論を深め、やっとゼミ論案として形になったとき、何ともいえない充実感がありました。ぜひ皆さんもこの濃厚な授業に挑戦してください!

篠原 麻友子(文学部・4回生)

教材をもちいて  
工夫しながら  
授業を行っています。



本科目は春学期に開講される大教室での授業です。EPOを使ったり、グループ討論したり、工夫しながら授業を行っています。受講生のうち自主的なグループが、GPTという名のMINIを作ったり、毎授業配布しています。GPTは授業をめぐっての学生同士の意見交換が展開されますが、これは市大独自のユニークな点でしょう。講義やGPTでの意見交換を通じて、学生が複眼的なものの考え方ができるようにしてほしいと思っています。

古久保 さくら(人権問題研究センター・教員)

女性でも  
知らなかった事が意外と  
たくさんありました。



「女性学入門編」では私たちの身の回りにあるジェンダー(社会的文化的な刷り込みによる性差)の問題について学びます。マスメディアや教育、家庭において私たちはどのように性別役割を刷り込まれてきたかを知る事ができる講義の中に、毎時間新しい発見や驚きがあります。この講義を通して、今まででも知ることのできた自分の生活の違う側面や、新しい考え方の見方を学ぶことができます。

清水 文子(文学部・1回生)

生と死の問題を  
みんなで真剣に  
考えてみよう。



医療技術の発展に伴って生じてきたいわゆる「生命倫理学(バイオエシックス)」の諸問題について、基本的な知識を得たうえで、自分の意見をもち、その考えの根拠と共に、他者に論理的に説明できるようにすることを目指しています。具体的なトピックとしては、臓器移植、人工妊娠中絶、安楽死、人体実験などを取り上げています。

### 総合教育科目A 生と死の倫理

自ら考え  
意見をぶつけることが  
大きな糧となるはず。



大学の講義といえは、教授が教壇に立ち、私たちはそれを座って聞くというイメージがあります。しかし、この講義は違います。討論や質疑応答を通して、受講生自らが考え、発言します。私たちが黙っていると、先生も黙り、沈黙が続くなんてこともありました。それもまた大切なのです。本気で物事を考えること、それは必ず自分自身の財産となるでしょう。

岩橋 正隆(生活科学部・2回生)

身体全体を使う  
コミュニケーションは  
楽しいですよ。



外国語を学ぶという事は、いろいろな文化について目からウロコを落とされることですが、実際のコミュニケーションというものが身体全体を使うものである以上、スピンにも似た「肉体的快楽」に目覚めることもあるのです。そのことを実感できるのが、大阪市立大学の外国語教育です。

福島 祥行(文学研究科・教員)

外国語を学ぶことは  
その国の文化を  
知ることなんです。



大学で学ぶ外国語は決して簡単ではありません。でも、学んだ分の何倍もの効果がかえってきます。私もことばの響きだけでフランス語を選びました。星の王子様の世界を原書で味わい、フランス語を流暢に話す(フランス版ポケモンにライバルを抱き、今ではフレンチがフランスを口ずさんでいます。これらは全部授業の環で学んだこと。世界に対する視野が確実に広がったことを実感しています。

米岡 千晶(2部法学部・3回生)

### 外国語科目 フランス語中級

# もっと深く、もっと楽しく。 教員と学生が語る 授業の魅力!